

各関係機関団体の長 }  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

令和 4 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

### 特殊報第 1 号

1 病名 ナスフザリウム立枯病

2 病原菌 *Fusarium solani-melongenae*

3 発生作物 ナス

4 発生の経過と概要

令和 3 年 12 月から令和 4 年 5 月に、県内のナス栽培ほ場で、新葉が萎縮し、株元に赤い小粒が生じ（写真 1）、症状が進むと枯死（写真 2）する株が見られた。福岡県農林業総合試験場で分離培養を行ったところ、*Fusarium* 属菌が分離され、門司植物防疫所に同定を依頼した結果、ナスフザリウム立枯病菌と確定された。

5 国内での発生状況

本菌は、トマト立枯病を引き起こす病原菌として知られていたが、高知県の施設栽培ナスで、萎凋・枯死症状を示す事例が確認され、平成 24 年に「ナスフザリウム立枯病（仮称）」として特殊報が発出された。令和 4 年 7 月時点で、特殊報は高知県のみから発出されている。

6 病徴

葉の黄化や萎れが発生し、症状が進むと枯死することもある。株の地際部の表皮には、ひび割れや陥没が認められ、赤い小粒（子のう殻）が形成されることが多い（写真 1、3）。

枝に発生する場合もあり、枝の表面が黒色に変色し、発病部から先は枯死する。

7 病原菌の性質

糸状菌の一種で子のう菌類に分類される。子のう殻中に子のう胞子を形成する他、分生子と厚膜胞子を形成する。生育適温は 25~30℃で高温多湿条件を好むと考えられる。

土壌中等の罹病残渣に付着している病原菌が伝染源となり、発病後は形成された分生子や子のう胞子の飛散により、二次伝染が起こると思われる。

## 8 防除対策

- (1) 太陽熱利用等による土壌消毒を実施し、第一次伝染原となる病原菌密度を低下させる。
- (2) 過度の灌水を避けるとともに、暗きよなどを設けてほ場の排水を良くする。
- (3) 発病株は伝染源となるため、発見後は直ちに取り除き、ほ場内や周辺に放置せず適正に処分する。
- (4) 発生ほ場では、生育初期からの定期的な防除に努める（登録農薬は、農林水産省の農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/> 等を参照。）



写真1 株元に発生した赤褐色の小斑点（子のう殻）



写真2 本病により枯死した株



写真3 子のう殻の拡大図

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。

発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①



○Twitter（ツイッター）で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitterの本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

URL: [https://twitter.com/PPDPO\\_Fukuoka](https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka) または右QRコード

